

整備のビオトープ入賞

篠山東雲高
自然科学部

園庭コンクールで

篠山東雲高校自然科学部生物班の4人が管理するビオトープが、「全国学校・園庭ビオトープコンクール」(公益財団法人日本生態系協会主催)で日本生態系協会賞を受賞した。学校敷地内にある農場の一部を借り、5年前からこつこつと整備を続けており、約40種類

の生き物が生息している。同賞受賞は3年ぶり2回目。ビオトープの特長や活動などをまとめた書類、同協会との質疑応答などで審査された。広さは約400平方

メートル。水はけが悪く、田んぼとして活用しにくい場所を整備した。さまざま



管理を続けるビオトープで、受賞を喜ぶ自然科学部生物班の部員たち=丹波篠山市福住で

な水深の場所を作ったり、泥上げや草引きをしたりして、多様な生き物の生息環境を整えている。また、観察しやすいよう、校区内にある県立ささやまの森公園(川原)から切り出した間伐材や倒木などを使い、棧橋を設けている。

ハイロゲンゴロウやモリアオガエルなど、貴重な生き物もすみつくようになった。夏には市内の小学生を招待し、生物観察会も開いている。

部長の 君(新2年・丹南中出身)は「ビオトープの管理を通し、生物多様性を守ることの大切さを学べている。先輩の思いを引き継ぎ、生き物のすみを広げていきたい」と話す。

君(同・鈴蘭台中出身)は「もともと生き物はそんなに好きではなかったけれど、入部してから好きになった」と充実感をにじませている。

丹波新聞
2022年3月31日